

令和3年度 北海道総合計画の見直しに係る道民意向調査

調査項目

これからの北海道について 新型コロナウイルス感染症に伴う経済社会情勢の変化について 新型コロナウイルス感染症の生活面での影響について

り

調査の	概要	
1調	査の概要	1
(1)	調査の目的	…1
(2)	調査項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(3)	調査の方法	
(4)	調査実施機関	… 1
(5)	調査回収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	査回答者の特性	
3 サ	ンプリング	
(1)	· - · -	
(2)		
(3)	抽出	
(4)		
	查地点一覧	
5 こ	の報告書の見方	12
調査結	果	
	・ れからの北海道について	13
(1)	将来像①「子育て環境・最適地」に重要なこと	13
(2)	将来像②「安全・安心社会」に重要なこと	15
(3)	将来像③「環境先進モデル・北海道」に重要なこと	17
	将来像④「北海道ブランド」に重要なこと	
(5)	将来像⑤「地域経済の循環」に重要なこと	21
(6)	将来像⑥「豊富な人材」に重要なこと	23
(7)	将来像⑦「個性あふれる地域」に重要なこと	25
2 新	型コロナウイルス感染症に伴う経済社会情勢の変化について	27
(1)	視点①「危機に対する強靭な社会を構築」の推進に必要なこと	27
(2)	視点②「北海道の真価を発揮」の推進に必要なこと	29
(3)	視点③「社会の変革に挑戦」の推進に必要なこと	31
3 新	型コロナウイルス感染症の生活面での影響について	33
	生活面での大きな変化	
(2)	収束後も定着する生活面での変化	35
資料編	j	
	・ ス集計表(比率) ····································	38

調査の概要

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

計画における将来像の実現に向けた進捗のほか、新型コロナウイルスの影響などにより時代が大きく変わろうとする中、こうした変化を道民がどのように受け止め、今後の社会にどう定着していくのか意向調査を実施し、道民の意向の的確な把握に努めるとともに、総合計画の見直しに反映する。

(2) 調査項目

- 1) これからの北海道について
- 2) 新型コロナウイルス感染症に伴う経済社会情勢の変化について
- 3) 新型コロナウイルス感染症の生活面での影響について

(3) 調査の方法

1) 調査地域 北海道全域

2) 調査対象 道内に居住する満18歳以上の個人

3) 標本数 1,500 サンプル

4) 地点数 150 地点

5) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

6) 調査方法 郵送配付、郵送回収による回答

(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

標本数 1,500

回収数 (率) 792 (52.8%) 有効回答数 (率) 792 (52.8%)

調査不能数 708

2 調査回答者の特性

注) 個々の比率(百分率) は、少数第2位を四捨五入 釧路・根室連携地域 無回答 した。このため、各区分における比率の合計が _ 0. 3% 【圏域別】 十勝連携地域_ 5. 2% _ 100.0%にならない場合がある(以下本報告書に 6.7% おいて同じ)。 オホーツク連携地域. 4.5% 道北連携地域_ 10.9% 道央広域連携地域 64.1% 道南連携地域 8.3% n = 792

	実 数	%
全 体	792	100.0
道央広域連携地域	508	64. 1
道南連携地域	66	8. 3
道北連携地域	86	10.9
オホーツク連携地域	36	4. 5
十勝連携地域	53	6. 7
釧路・根室連携地域	41	5. 2
無回答	2	0.3

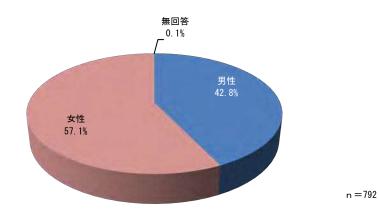
【振興局別】

	実 数	%
空知総合振興局	39	4. 9
石狩振興局	373	47. 1
後志総合振興局	24	3. 0
胆振総合振興局	62	7.8
日高振興局	10	1. 3
渡島総合振興局	61	7. 7
檜山振興局	5	0.6
上川総合振興局	69	8. 7
留萌振興局	13	1.6
宗谷総合振興局	4	0.5
オホーツク総合振興局	36	4. 5
十勝総合振興局	53	6. 7
釧路総合振興局	34	4. 3
根室振興局	7	0.9
無回答	2	0.3

【人口規模別】

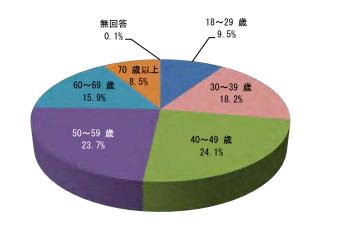
	実 数	%
札幌市	311	39. 3
人口 10 万人以上の市	198	25. 0
人口 10 万人未満の市	137	17.3
町村	143	18. 1
無回答	3	0.4

【性別】



	実 数	%
全 体	792	100.0
男性	339	42.8
女性	452	57. 1
無回答	1	0. 1

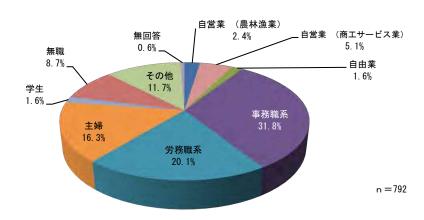
【年代別】



n = 792

	実 数	%
18~29 歳	75	9. 5
30~39 歳	144	18. 2
40~49 歳	191	24. 1
50~59 歳	188	23. 7
60~69 歳	126	15. 9
70 歳以上	67	8. 5
無回答	1	0.1

【職種別】



	実 数	%
全 体	792	100.0
自営業(農林漁業)	19	2. 4
自営業(商工サービス業)	40	5. 1
自由業	13	1.6
事務職系	252	31.8
労務職系	159	20. 1
主婦	129	16. 3
学生	13	1.6
無職	69	8.7
その他	93	11. 7
無回答	5	0.6

【北海道の居住年数別】

	実 数	%
1 年未満	1	0. 1
1年以上2年未満	4	0. 5
2年以上3年未満	3	0. 4
3年以上5年未満	4	0.5
5 年以上 10 年未満	10	1.3
10 年以上 20 年未満	19	2. 4
20 年以上	166	21.0
生まれてから変わらず	582	73. 5
無回答	3	0.4

【現市町村の居住年数別】

	実 数	%
1 年未満	11	1. 4
1年以上2年未満	13	1.6
2年以上3年未満	12	1.5
3年以上5年未満	17	2. 1
5 年以上 10 年未満	52	6. 6
10 年以上 20 年未満	81	10. 2
20 年以上	337	42.6
生まれてから変わらず	264	33. 3
無回答	5	0.6

3 サンプリング

母集団 道内に居住する満18歳以上の個人

標本数 1,500 サンプル

地点数 150 地点

抽出方法 層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、 岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、三笠市、南幌町、長沼町、 ★小樽市、倶知安町、仁木町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、 伊達市、壮瞥町、むかわ町、新冠町、新ひだか町

【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、八雲町、長万部町、今金町

【道 北】 ★旭川市、東神楽町、富良野市、上富良野町、中富良野町、 留萌市、稚内市、羽幌町

【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、大空町

【十 勝】 ★帯広市、音更町、芽室町、清水町、幕別町、浦幌町

【釧路·根室】 ★釧路市、釧路町、厚岸町、根室市、中標津町

- 注)★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市
 - ② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の市」「人口10万人未満の市」「町村」と人口規模別に分類した。人口規模は、令和3年3月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、令和3年3月1日時点の選挙人名 簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の地点数を比例分配した。なお、各母集団 は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点(各市町村、条町丁字名別)の抽出 各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台 帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累 積占用率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、 調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意し た。

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

圏域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R3. 3. 31 現在)	選挙人名簿 登載者数 (R3. 3. 1 現在)	標本数	地点数
	札幌市	1, 946, 744	1, 684, 916	550	55
道央広域	人口 10 万人以上	398, 707	346, 698	110	11
連携地域	人口 10 万人未満	655, 113	572, 872	190	19
	町村部	281, 242	249, 458	100	10
道南	人口 10 万人以上	248, 932	220, 903	70	7
道 南 連携地域	人口 10 万人未満	45, 053	38, 498	10	1
建场地域	町村部	118, 015	105, 506	40	4
道北	人口 10 万人以上	328, 558	286, 513	90	9
道 北 連携地域	人口 10 万人未満	117, 195	103, 805	30	3
2000年	町村部	136, 238	119, 219	40	4
オホーツク	人口 10 万人以上	114, 301	99, 985	30	3
連携地域	人口 10 万人未満	54, 445	48, 157	20	2
<i>至1797</i> 亿·3	町村部	100, 302	88, 024	30	3
十 勝	人口 10 万人以上	164, 107	141,812	50	5
連携地域	町村部	166, 621	143, 342	50	5
釧路・根室 連携地域	人口 10 万人以上	163, 317	144, 034	50	5
	人口 10 万人未満	24, 213	21, 495	10	1
	町村部	104, 272	90, 193	30	3
合計		5, 167, 375	4, 505, 430	1, 500	150

4調査地点一覧

圏域	抽出市		抽出地点
			北 14 条西 15 丁目
		札幌市中央区	北2条西27丁目
			北2条東8丁目
			南 11 条西 12 丁目
			南 18 条西 13 丁目
			南 29 条西 11 丁目
			宮の森1条7丁目
			あいの里2条4丁目
			北 27 条西 6 丁目
			北 29 条西 14 丁目
		札幌市北区	北 34 条西 3 丁目
		4 c 42c 11 4 c 65	北37条西6丁目
			拓北7条3丁目
			新川西4条3丁目
诸			新琴似9条4丁目
央			北20条東3丁目
域	石狩振興局	札幌市東区	北26条東5丁目
連携			北35条東6丁目
道央広域連携地域			北48条東7丁目
以			北8条東6丁目
			東苗穂11条3丁目
			伏古3条2丁目
		札幌市白石区	川北3条1丁目
			川下5条3丁目
			菊水6条2丁目
			菊水元町5条2丁目
			北郷5条9丁目
			本郷通1丁目南
			月寒西1条6丁目
			月寒東5条7丁目
		札幌市豊平区	豊平 5 条 2 丁目
			平岸 5 条 12 丁目
			福住1条1丁目
			美園1条3丁目

圏域	抽出市町村		抽出地点
			川沿9条3丁目
		札幌市南区	澄川4条2丁目
			藤野4条4丁目
			真駒内南町2丁目
			琴似3条5丁目
			西野6条2丁目
		 札幌市西区	八軒6条東3丁目
		↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑	発寒 12 条 11 丁目
			宮の沢3条5丁目
			山の手6条6丁目
			厚別北1条1丁目
		札幌市厚別区	厚別西2条2丁目
		了一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	厚別東4条5丁目
			大谷地西4丁目
冶			曙4条3丁目
央		 札幌市手稲区	稲穂1条6丁目
域	石狩振興局	化恍川于相区	新発寒6条5丁目
連 携	7 D 7 1 JJC 7 C / FJ		富丘4条4丁目
道央広域連携地域			美しが丘5条6丁目
-30		札幌市清田区	北野4条3丁目
			真栄2条2丁目
		江別市	大麻泉町
			大麻元町
			中央町
			旭ケ丘4丁目
		千歳市	勇舞1丁目
			若草2丁目
		恵庭市	島松東町2丁目
		心灰巾	中島町4丁目
		北広島市	大曲並木3丁目
		1四月 四 川	松葉町4丁目
		石狩市	親船東3条1丁目
			花川南4条2丁目
		当別町	栄町

圏域	抽出市町村		抽出地点
		щ п хп т	東町1条8丁目
		岩見沢市	美園 5 条 8 丁目
		美唄市	東6条南2丁目
	宏知然 会摆脚里	滝川市	朝日町東3丁目
	空知総合振興局	砂川市	吉野3条南6丁目
		三笠市	多賀町
		南幌町	西町2丁目
		長沼町	錦町南1丁目
			入船3丁目
		小樽市	豊川町
	後志総合振興局		若松2丁目
道	1次心形口1灰央内	倶知安町	南4条東5丁目
道央広域連携地域		仁木町	北町3丁目
域 連		余市町	黒川町 18 丁目
携	胆振総合振興局		明野新町4丁目
域		苫小牧市	宮の森町2丁目
			ウトナイ南7丁目
			永福町2丁目
			桜坂町2丁目
		室蘭市	本町1丁目
			知利別町2丁目
		登別市	若山町2丁目
		伊達市	竹原町
		壮瞥町	滝之町
		むかわ町	福住2丁目
	日高振興局	新冠町	中央町
	H HJJ/X J C /HJ	新ひだか町	静内古川町2丁目
道南連携地域			赤川町
			亀田港町
			志海苔町
	渡島総合振興局	函館市	昭和町
地域			新湊町
- 収			瀬戸川町
			時任町

圏域	抽出市町村		抽出地点
124		北斗市	本町5丁目
道南連携地域		七飯町	桜町2丁目
	渡島総合振興局	八雲町	内浦町
地		長万部町	長万部
ツ	檜山振興局	今金町	種川
			7条西4丁目
			秋月3条1丁目
			神楽3条10丁目
			神楽岡 13 条 6 丁目
		旭川市	神居4条18丁目
			春光4条8丁目
道	上川総合振興局		末広4条9丁目
道北連携地域			忠和6条7丁目
携			東光 22 条 6 丁目
域		東神楽町	北2条東2丁目
		富良野市	南麻町
		上富良野町	大町1丁目
		中富良野町	南町
	宗谷総合振興局	稚内市	緑5丁目
	留萌振興局	留萌市	五十嵐町2丁目
	田州派殃川	羽幌町	栄町
		北見市	桂町5丁目
オ			幸町6丁目
ホ 			錦町
ツク連携地域		網走市	潮見9丁目
連		紋別市	大山町1丁目
携 地		美幌町	西2条南2丁目
域		遠軽町	2条通南1丁目
		大空町	女満別西6条
+			西 10 条南 28 丁目
勝		帯広市	西 18 条北 1 丁目
連 携	十勝総合振興局		西 18 条南 3 丁目
十勝連携地域			西 20 条南 5 丁目
域			西 23 条南 4 丁目

圏域	抽出市町村		抽出地点
		音更町	北鈴蘭北4丁目
勝		芽室町	東3条南2丁目
連携	十勝総合振興局	清水町	南 8 条 10 丁目
十勝連携地域		幕別町	札内泉町
域		浦幌町	住吉町
	釧路総合振興局	釧路市	大楽毛西1丁目
			川端町
釧 路			緑ケ岡6丁目
•			弥生2丁目
室			若草町
根室連携地域		釧路町	新開4丁目
地域		厚岸町	湾月2丁目
	根室振興局	根室市	宝林町1丁目
	似主1灰哭问	中標津町	西5条北

5 この報告書の見方

- (1) 回答率(各回答の百分率)は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2 つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果(真の値)から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = 標本誤差$$
 $N-n$ $P(1-P)$ $N = 母集団数$ $n = 回答者数$ $N-1$ n $P = 回答比率$

上記の式により、回答者数 (n)、及び回答比率 (P) ごとに信頼度 95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P)	90%または	80%または	70%または	60%または	500/租库
回答者数(n)	10%程度	20%程度	30%程度	40%程度	50%程度
792	$\pm 3.02\%$	±4.02%	$\pm 4.61\%$	$\pm 4.92\%$	±5.03%
500	±3.79%	±5.06%	$\pm 5.80\%$	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	$\pm 6.53\%$	$\pm 7.48\%$	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

**上表は
$$\frac{N-n}{N-1} = 1$$
として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 792 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60% であった場合、その回答比率の誤差は 95% の信頼度で、 $\pm 4.92\%$ 以内($55.08\sim 64.92\%$)である」とみることができる。

- (4) 圏域別(道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室)の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」(P5~P9) に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、【性別】については、男性、 女性ともに上位1項目、【年代別】についても上位1項目を記載した。

調査結果

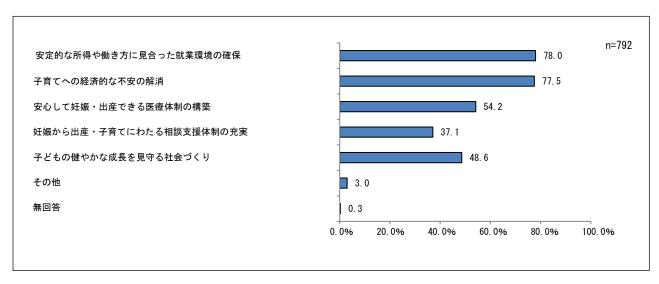
調査結果

Ⅰ これからの北海道について

問| (1)将来像①「子育て環境・最適地」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(1) 将来像①「子育て環境・最適地」 Ⅰ

「安定的な所得や働き方に見合った就業環境の確保」(78.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「子育てへの経済的な不安の解消」(77.5%)、「安心して妊娠・出産できる医療体制の構築」(54.2%)の順となっている。上位2位までは、全体の7割を超えている。



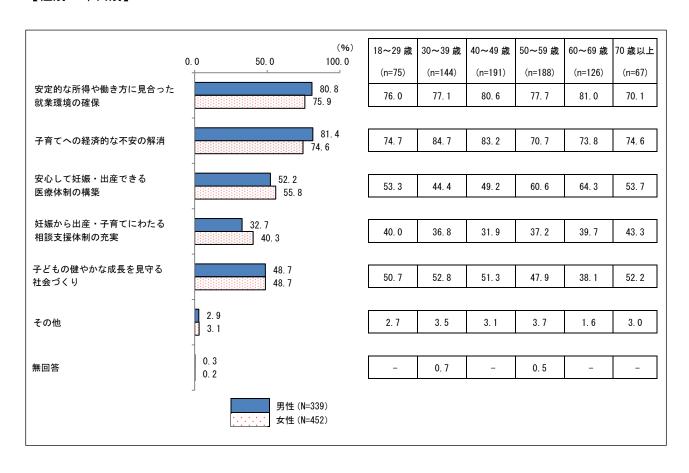
(1) 将来像①「子育て環境・最適地」 Ⅱ

性別でみると、男性では「子育てへの経済的な不安の解消」(81.4%)が、女性では「安定的な所得や働き方に見合った就業環境の確保」(75.9%)の割合が最も高くなっている。

また、「子育てへの経済的な不安の解消」では男性が女性より 5 ポイント以上高く、「妊娠から出産・子育てにわたる相談支援体制の充実」では女性が男性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「安定的な所得や働き方に見合った就業環境の確保」については、60~69 歳(81.0%)、40~49 歳(80.6%)、50~59 歳(77.7%)の割合が高くなっている。

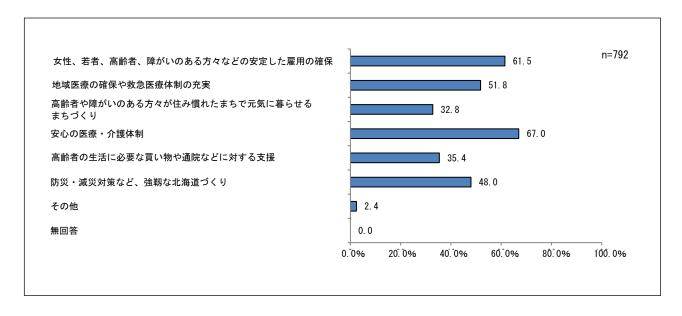
一方、「子育てへの経済的な不安の解消」については、 $30\sim39$ 歳(84.7%)、 $40\sim49$ 歳(83.2%)、 $18\sim29$ 歳(74.7%)の割合が高くなっている。



問Ⅰ (2)将来像②「安全·安心社会」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(2) 将来像②「安全·安心社会」 I

「安心の医療・介護体制」(67.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「女性、若者、高齢者、障がいのある方々などの安定した雇用の確保」(61.5%)、「地域医療の確保や救急医療体制の充実」(51.8%)の順となっている。



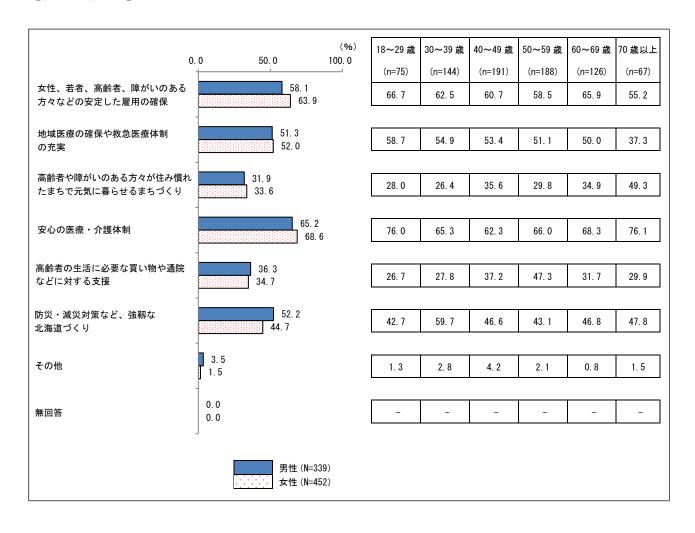
(2)将来像②「安全·安心社会」Ⅱ

性別でみると、男性 (65.2%)、女性 (68.6%) ともに「安心の医療・介護体制」の割合が最も高くなっている。

また、「防災・減災対策など、強靱な北海道づくり」では男性が女性より 5 ポイント以上高く、「女性、若者、高齢者、障がいのある方々などの安定した雇用の確保」では女性が男性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「安心の医療・介護体制」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

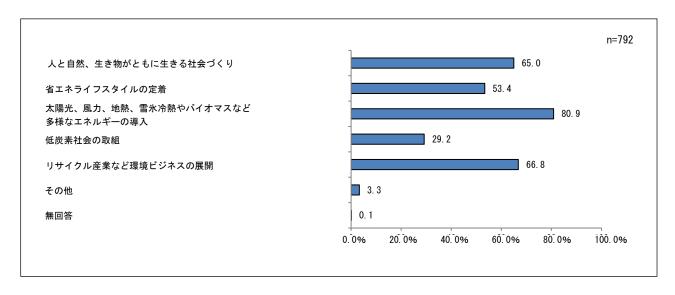
また、「高齢者や障がいのある方々が住み慣れたまちで元気に暮らせるまちづくり」では 70 歳以上 (49.3%) が、「高齢者の生活に必要な買い物や通院などに対する支援」では $50\sim59$ 歳 (47.3%) が、「防災・減災対策など、強靭なほっかいどうづくり」では $30\sim39$ 歳 (59.7%) が相対的に高くなっている。



問I (3) 将来像③「環境先進モデル・北海道」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(3) 将来像③「環境先進モデル・北海道」 Ⅰ

「太陽光、風力、地熱、雪氷冷熱やバイオマスなど多様なエネルギーの導入」(80.9%)と答えた 方の割合が最も高く、次いで「リサイクル産業など環境ビジネスの展開」(66.8%)、「人と自然、生 き物がともに生きる社会づくり」(65.0%)の順となっている。上位1位が全体の8割を超えている。



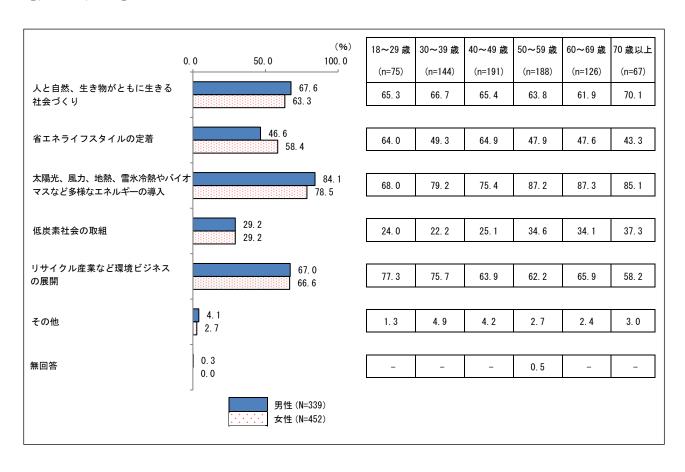
(3) 将来像③「環境先進モデル・北海道」 Ⅱ

性別でみると、男性(84.1%)、女性(78.5%)ともに「太陽光、風力、地熱、雪氷冷熱やバイオマスなど多様なエネルギーの導入」の割合が最も高くなっている。

また、「省エネライフスタイルの定着」では女性が男性より5ポイント以上高く、「太陽光、風力、 地熱、雪氷冷熱やバイオマスなど多様なエネルギーの導入」では男性が女性より5ポイント以上高 くなっている。

年代別でみると、「太陽光、風力、地熱、雪氷冷熱やバイオマスなど多様なエネルギーの導入」については、18~29歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

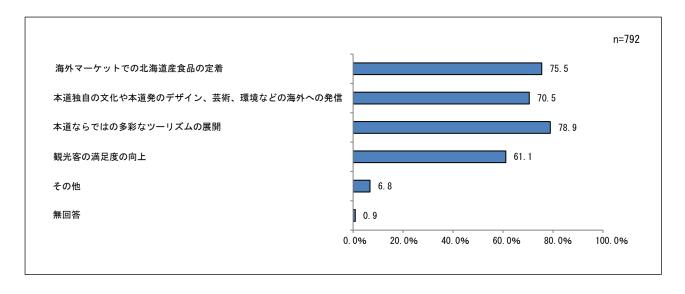
また、「省エネライフスタイルに定着」では $18\sim29$ 歳(64.0%)、 $40\sim49$ 歳(64.9%)が、「リサイクル産業など環境ビジネスの展開」では $18\sim29$ 歳(77.3%)、 $30\sim39$ 歳(75.7%)が相対的に高くなっている。



問| (4)将来像④「北海道ブランド」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(4) 将来像④「北海道ブランド」 I

「本道ならではの多彩なツーリズムの展開」(78.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「海外マーケットでの北海道産食品の定着」(75.5%)、「本道独自の文化や本道発のデザイン、芸術、環境などの海外への発信」(70.5%)の順となっている。上位3位までは、全体の7割を超えている。



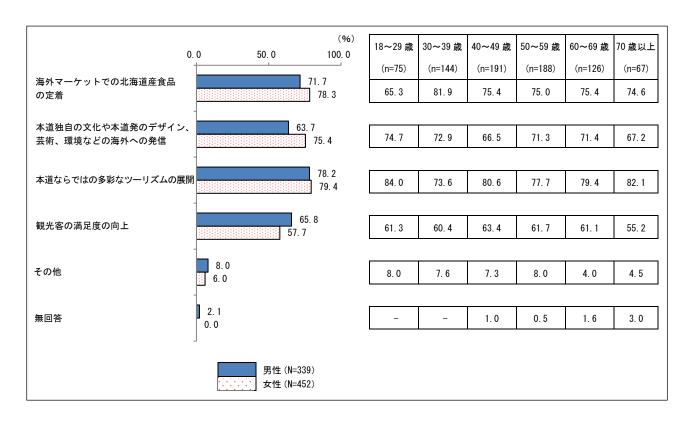
(4) 将来像④「北海道ブランド」 Ⅱ

性別でみると、男性(78.2%)、女性(79.4%)ともに「本道ならではの多彩なツーリズムの展開」の割合が最も高くなっている。

また、「海外マーケットでの北海道産食品の定着」「本道独自の文化や本道発のデザイン、芸術、環境などの海外への発信」では女性が男性より5ポイント以上高く、「観光客の満足度の向上」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「本道ならではの多彩なツーリズムの展開」については、30~39歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

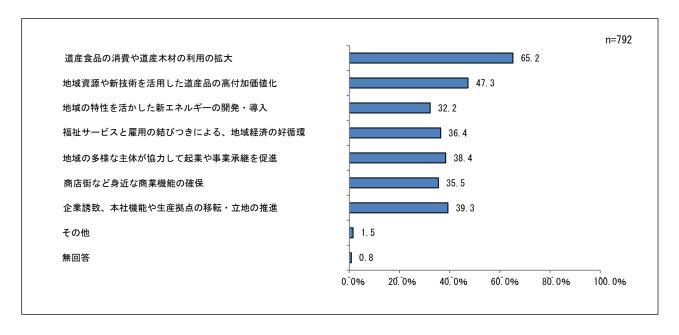
一方、「海外マーケットでの北海道産食品の定着」については、30~39歳(81.9%)の割合が最も高くなっている。



問I (5) 将来像⑤「地域経済の循環」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(5) 将来像⑤「地域経済の循環」 Ⅰ

「道産食品の消費や道産木材の利用の拡大」(65.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地域資源や新技術を活用した道産品の高付加価値化」(47.3%)、「企業誘致、本社機能や生産拠点の移転・立地の推進」(39.3%)の順となっている。

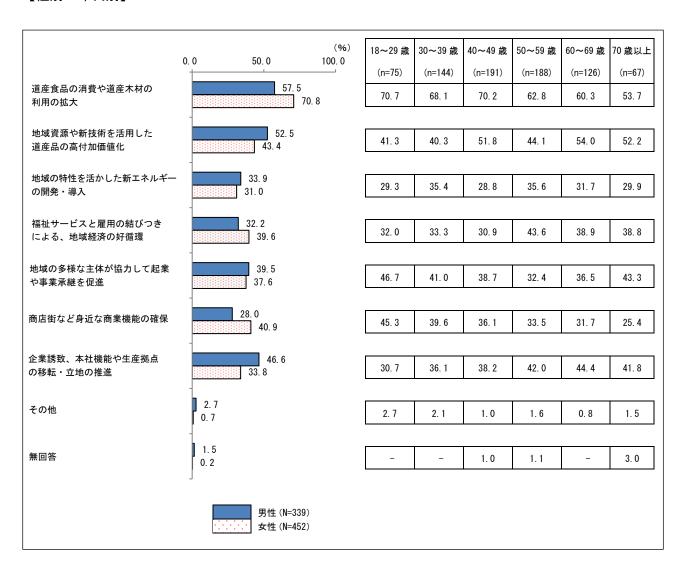


(5) 将来像⑤「地域経済の循環」Ⅱ

性別でみると、男性(57.5%)、女性(70.8%)ともに「道産食品の消費や道産木材の利用の拡大」の割合が最も高くなっている。

また、「道産食品の消費や道産木材の利用の拡大」「福祉サービスと雇用の結びつきによる、地域 経済の好循環」「商店街など身近な商業機能の確保」では女性が男性より5ポイント以上高く、「地 域資源や新技術を活用した道産品の高付加価値化」「企業誘致、本社機能や生産拠点の移転・立地 の推進」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

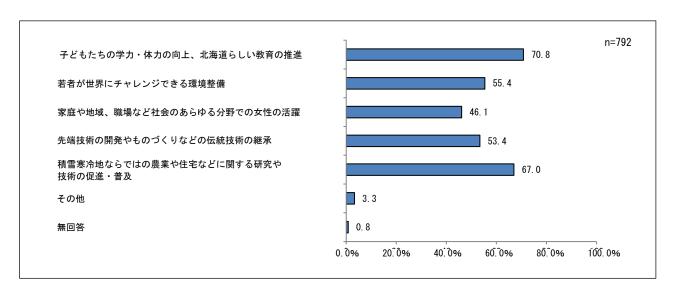
年代別でみると、「道産食品の消費や道産木材の利用の拡大」の割合がすべての年代で最も高くなっている。



問1 (6) 将来像⑥「豊富な人材」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(6) 将来像⑥「豊富な人材」 Ι

「子どもたちの学力・体力の向上、北海道らしい教育の推進」(70.8%)と答えた方の割合が最も高いく、次いで「積雪寒冷地ならではの農業や住宅などに関する研究や技術の促進・普及」(67.0%)、「若者が世界にチャレンジできる環境整備」(55.4%)の順となっている。1位は全体の7割を超えている。



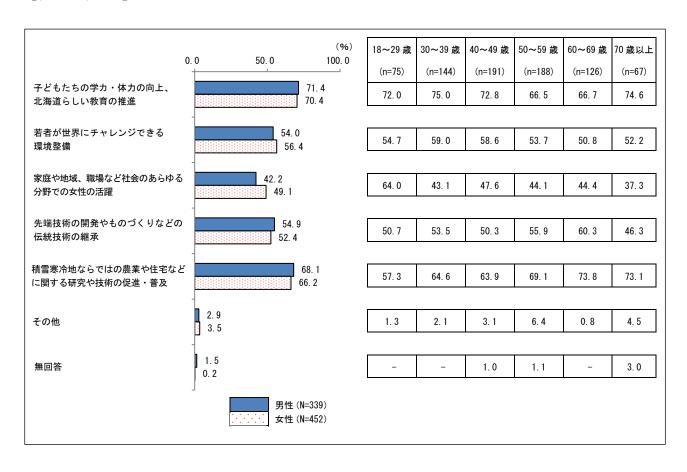
(6) 将来像⑥「豊富な人材」 Ⅱ

性別でみると、男性 (71.4%)、女性 (70.4%) ともに「子どもたちの学力・体力の向上、北海道 らしい教育の推進」の割合が最も高くなっている。

また、「家庭や地域、職場など社会のあらゆる分野での女性の活躍」では女性が男性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「子どもたちの学力・体力の向上、北海道らしい教育の推進」については、すべての年代で割合が高く、「積雪寒冷地ならではの農業や住宅などに関する研究や技術の促進・普及」については、 $50\sim59$ 歳(69.1%)、 $60\sim69$ 歳(73.8%)、70 歳以上(73.1%)の割合が高くなっている。

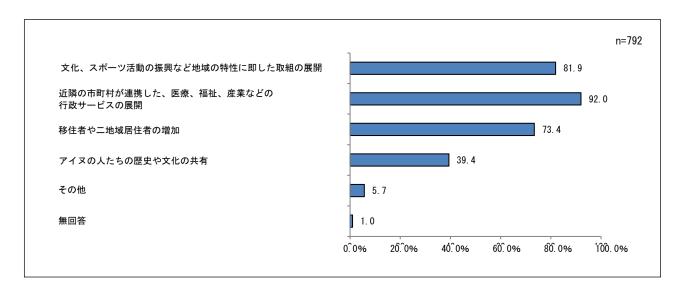
また、「家庭や地域、職場など社会のあらゆる分野での女性の活躍」については、他の年代の割合と比べて18~29歳(64.0%)の割合が相対的に高くなっている。



問Ⅰ (7)将来像⑦「個性あふれる地域」について、今後、特に力を入れるべき項目を3つ選択してください。

(7) 将来像⑦「個性あふれる地域」 I

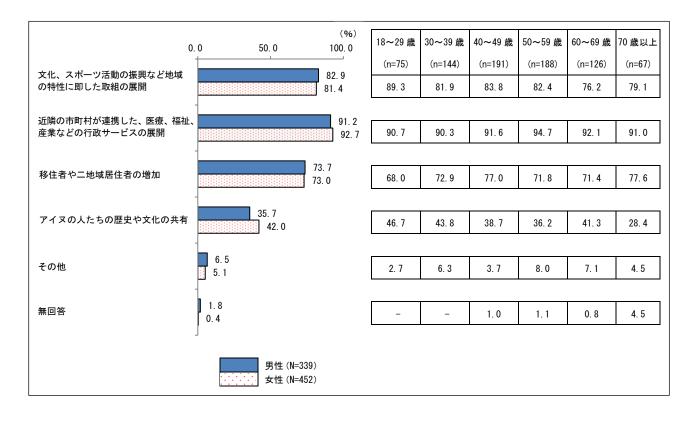
「近隣の市町村が連携した、医療、福祉、産業などの行政サービスの展開」(92.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「文化、スポーツ活動の振興など地域の特性に即した取組の展開」(81.9%)、「移住者や二地域居住者の増加」(73.4%)の順となっている。1位は、全体の9割を超えており、2位は8割、3位は7割を超えている。



(7) 将来像⑦「個性あふれる地域」 Ⅱ

性別でみると、男性 (91.2%)、女性 (92.7%) ともに「近隣の市町村が連携した、医療、福祉、 産業などの行政サービスの展開」の割合が最も高くなっている。

また、「アイヌの人たちの歴史や文化の共有」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。 年代別でみると、「近隣の市町村が連携した、医療、福祉、産業などの行政サービスの展開」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

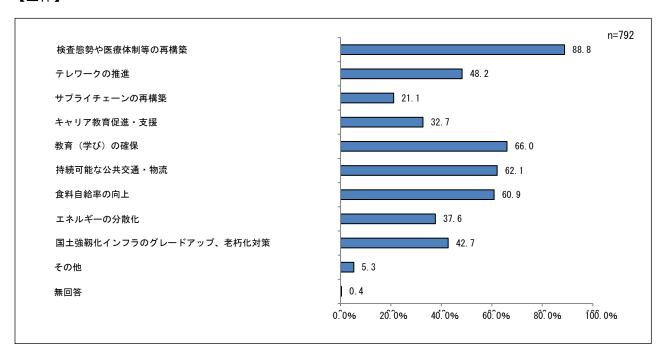


2 新型コロナウイルス感染症に伴う経済社会情勢の変化について

間2 (1)視点①「危機に対する強靱な社会を構築」について、今後推進していく必要があると思う キーワードを選択してください。(複数回答可)

(I)視点①「危機に対する強靱な社会を構築」 I

「検査態勢や医療体制等の再構築」(88.8%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「教育(学び)の確保」(66.0%)、「持続可能な公共交通・物流」(62.1%)の順となっている。1位が全体の8割を超えている。

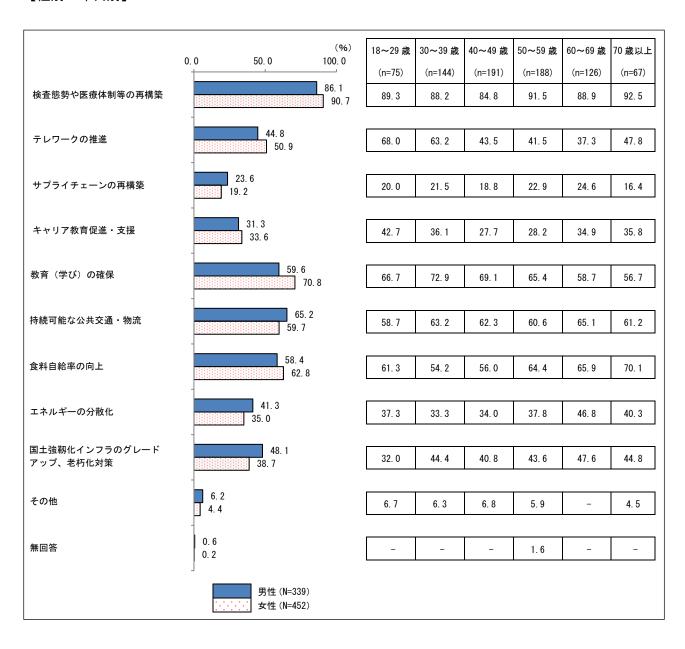


(1)視点①「危機に対する強靱な社会を構築」Ⅱ

性別でみると、男性 (86.1%)、女性 (90.7%) ともに「検査態勢や医療体制等の再構築」の割合 が最も高くなっている。

また、「テレワークの推進」「教育(学び)の確保」では女性が男性より5ポイント以上高く、「持続可能な公共交通・物流」「エネルギーの分散化」「国土強靱化インフラのグレードアップ、老朽化対策」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

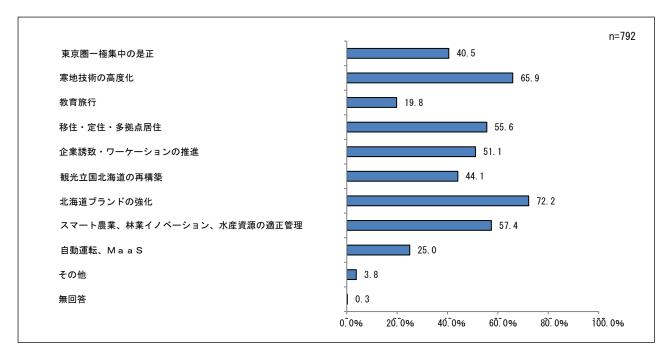
年代別でみると、「検査態勢や医療体制等の再構築」の割合がすべての年代で最も高くなっている。 また、「テレワークの推進」については、18~29歳(68.0%)、30~39歳(63.2%)の割合が相対 的に高くなっている。



問2 (2) 視点②「北海道の真価を発揮」について、今後推進していく必要があると思うキーワード を選択してください。(複数回答可)

(2) 視点②「北海道の真価を発揮」 Ⅰ

「北海道ブランドの強化」(72.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「寒地技術の高度化」(65.9%)、「スマート農業、林業イノベーション、水産資源の適正管理」(57.4%)の順となっている。上位1位が全体の7割を超えている。



(2) 視点②「北海道の真価を発揮」 Ⅱ

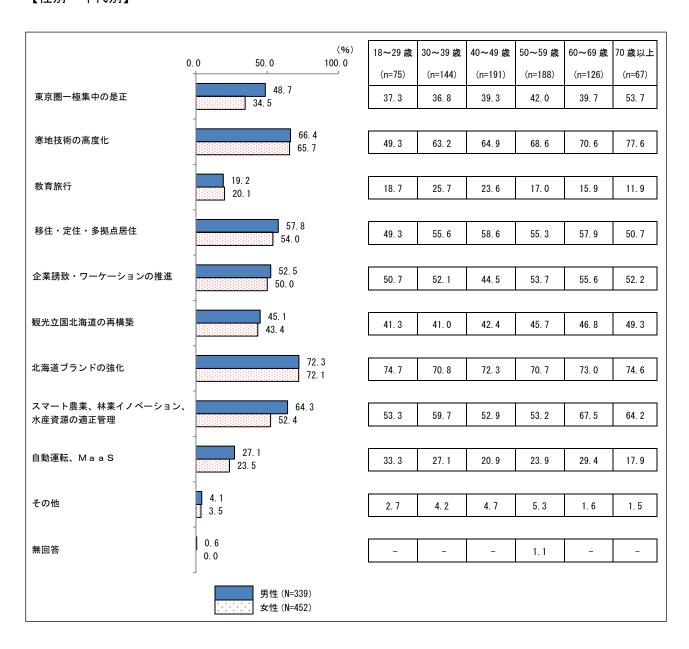
性別でみると、男性 (72.3%)、女性 (72.1%) ともに「北海道ブランドの強化」の割合が最も高くなっている。

また、「東京圏一極集中の是正」「スマート農業、林業イノベーション、水産資源の適正管理」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「北海道ブランドの強化」については、70歳以上を除くすべての年代で割合が最 も高くなっている。

一方、「寒地技術の高度化」については、70歳以上(77.6%)の割合が最も高くなっている。 また、「東京圏一極集中の是正」については、70歳以上(53.7%)の割合が相対的に高くなっている。

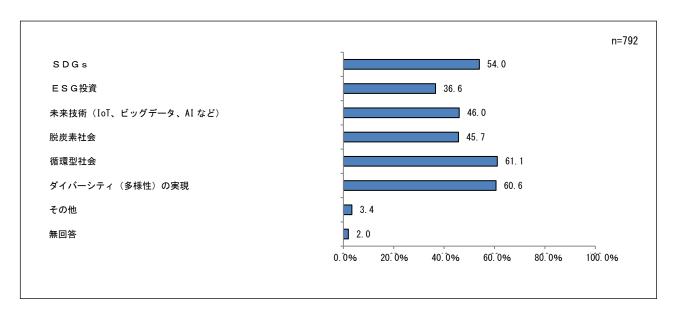
【性別・年代別】



問2 (3) 視点③「社会の変革に挑戦」について、今後推進していく必要があると思うキーワード を選択してください。(複数回答可)

(3) 視点③「社会の変革に挑戦」 Ⅰ

「循環型社会」(61.1%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「ダイバーシティ(多様性)の実現」(60.6%)、「SDGs」(54.0%) の順となっている。



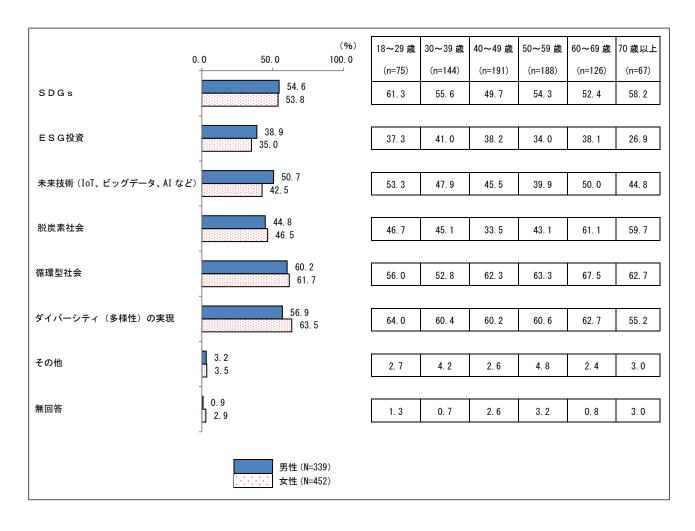
(3) 視点③「社会の変革に挑戦」Ⅱ

性別でみると、男性では「循環型社会」(60.2%)が、女性では「ダイバーシティ(多様性)の実現」(63.5%)の割合が最も高くなっている。

また、「未来技術(IoT、ビッグデータ、AI など)」では男性が女性より5ポイント以上高く、「ダイバーシティ(多様性)の実現」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「循環型社会」と「ダイバーシティ(多様性)の実現」の割合が、すべての年代で高い割合となっている。

また、「脱炭素社会」については、60~69 歳 (61.1%)、70 歳以上 (59.7%) の割合が相対的に高くなっている。

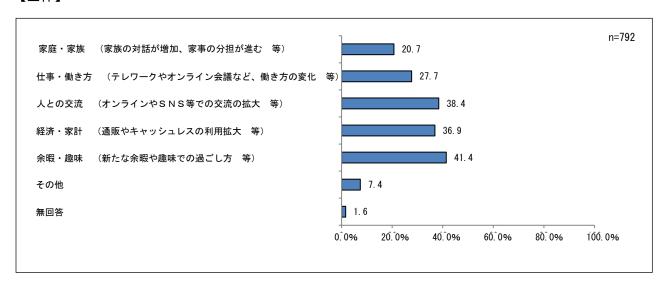


3 新型コロナウイルス感染症の生活面での影響について

問3 新型コロナウイルスの感染拡大によるあなたの生活の変化のうち、一番大きな変化があった と思うものを選択してください。(2つまで回答可)

3 生活面での大きな変化 I

「余暇・趣味(新たな余暇や趣味での過ごし方等)」(41.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「人との交流(オンラインやSNS等での交流の拡大等)」(38.4%)、「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大等)」(36.9%)の順となっている。

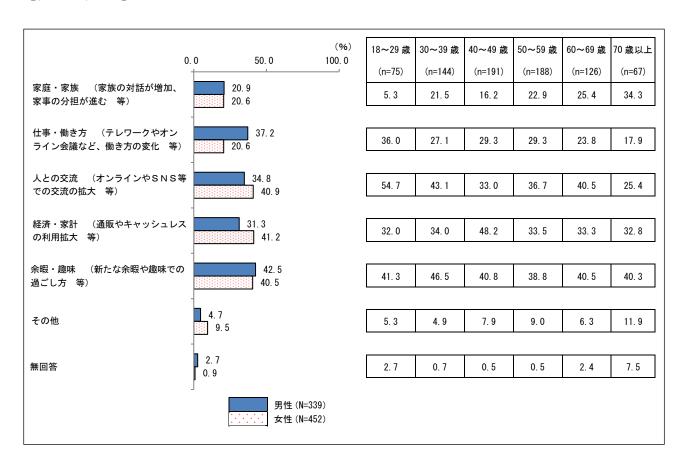


3 生活面での大きな変化 Ⅱ

性別でみると、男性では「余暇・趣味(新たな余暇や趣味での過ごし方 等)」(42.5%) が、女性では「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大 等)」(41.2%) の割合が最も高くなっている。また、「仕事・働き方(テレワークやオンライン会議など、働き方の変化 等)」では男性が女性より5ポイント以上高く、「人との交流(オンラインやSNS等での交流の拡大 等)」「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大 等)」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「余暇・趣味 (新たな余暇や趣味での過ごし方 等)」の割合が、すべての年代で約4割となっている。

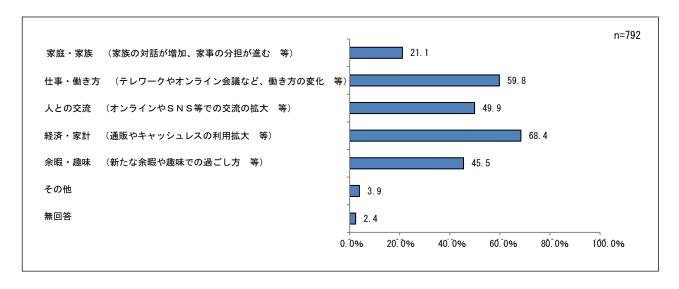
また、「人との交流(オンラインやSNS等での交流の拡大 等)」では $18\sim29$ 歳(54.7%)が、「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大 等)」では $40\sim49$ 歳(48.2%)の割合が相対的に高くなっている。



問 4 新型コロナウイルスがもたらした生活の変化のうち、新型コロナウイルスの収束後においても 定着していくと思う変化を選択してください。(複数回答可)

4 新型コロナウイルス収束後も定着する生活面での変化 I

「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大等)」(68.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「仕事・働き方(テレワークやオンライン会議など、働き方の変化等)」(59.8%)、「人との交流(オンラインやSNS等での交流の拡大等)」(49.9%)の順となっている。



4 新型コロナウイルス収束後も定着する生活面での変化 Ⅱ

年代別でみると、「経済・家計(通販やキャッシュレスの利用拡大等)」の割合がすべての年代で最も高く、18~29歳については、「仕事・働き方(テレワークやオンライン会議など、働き方の変化等)」でも高い割合となっている。

また、「余暇・趣味 (新たな余暇や趣味での過ごし方 等)」については、60~69 歳 (50.8%)、70 歳以上 (50.7%) の割合が相対的に高くなっている。

